

全学的FDのための課題と展望

—センター活動初年度の経験から—

矢野 裕 俊

(大阪市立大学 大学教育研究センター)

A はじめに

大阪市立大学では、4年一貫教育により、豊かな人間性ととも高度な知識・技術を身につけた自立した社会人の育成をめざしてきたが、そのための教養教育と専門教育の結合のあり方をどうするのかという問いをはじめ、初等・中等教育への質的变化、学生の基礎学力の低下や知的関心の変化などに伴う大学教育の諸問題に対して、大学として組織的取組みを行う必要があるとの観点から、2003年4月に大学教育研究センターが設立された。目下専任は3名だが、大学教育改善のスティミュレーターとしての役割を期待されている。

2003年2月に学内でまとめられた「大学改革基本方針」では、「従来、教育は教員個人にまかせきりの姿勢であったが、今後は大学として組織的な取組みを行う必要がある。特に教員の教育への熱意をかきたてる仕組みを構築しなくてはならない。例えば、教育に対する評価制度の導入や学生からの評価の義務化が考えられる。また、教員の教育力を高めるファカルティ・ディベロップメントについても、全教員の参加を義務化するなど積極的な取組が必要である」として、FD活動の重要性に触れられている。こうした方針に沿って、センターにおいては、「当面の活動課題」の一つとして、FD活動にかかわる課題を設定した。

B センターがすすめるFD活動

FD活動については、センターが主管するものと、センターが支援するものとの2つに分け、前者として、1) FD研究会、2) 教育改革シンポジウム、後者として、3) 全学共通科目の公開授業(各教科会議主催)、4) 学部FD活動への協力、などを行っている。

本年度は、すでに1)、3)、4)を行った他、全学の教員のFD活動に対する関心を促すための活動の一環として、「FD手帳」を作成し、全教員(全学共通教育の非常勤講師も含む)に配付した。また、すべての専任教員を対象としてFDに関する教員の意識調査を計画し、目下実施の準備をすすめている。

本発表では、全学規模で行った第1回FD研究会(10月31日)について、実施により明らかになった成果と問題点を整理して報告するとともに、「FD手帳」の活用状況や教員の意識調査結果の中間的検討を通じて今後の全学的FD活動の課題を明らかにする。

C 第1回FD研究会 2003年10月31日(金) 午後1時~5時

第1回FD研究会は、昨年まで毎年行われてきた大学教育研究会を発展的に継承するものであり、授業実践報告とともに、実施開始以来ほぼ10年になる全学共通教育の授業評価アンケートについて授業改善という観点からそのあり方を振り返り課題を明確にするというねらいをもって行われた。その構成と、参加者に実施したアンケート調査結果は次の通り。

分科会(1:10~2:40) 第1「講義形式の科目の授業とFD」、第2「演習形式の科目の授業」、
第3「外国語・基礎教育科目の授業」

全体会 (3:00~5:00) 各分科会の概要紹介

総括講演&討論「学生による授業評価アンケートを授業の改善にどう生かすか」

講演 木野茂 (大学教育研究センター)

Q 1 今日のFD研究会に出席された理由は何ですか。(該当番号にいくつでも○を付けてください。)

1 分科会の発表に興味があったから	68%	回答数42/62 (有効回答数)
2 全体会の講演に興味があったから	16%	10/62
3 FD活動への参加は教員の責務だから	42%	26/62
4 出席するように誘われたから	8%	5/62
5 研究科(学部)等で出席が奨励されたから	23%	14/62
6 その他	15%	9/62

Q 2 どの分科会に出席されましたか。

1 第1分科会	42%	回答数26/61 (有効回答数)
2 第2分科会	28%	17/61
3 第3分科会	38%	23/61
4 全体会のみ	5%	3/61

Q 3 分科会についてお聞きします。

(1)分科会は授業をはじめ日頃の教育活動のあり方を考えるうえで参考になるところがありましたか。

1 大いにあった	55%	回答数33/60 (有効回答数)
2 少しあった	38%	23/60
3 どちらともいえない	5%	3/60
4 あまりなかった	0%	

Q 4 参考になるところはどんな点ですか。なければそれはなぜだとお考えですか。

Q 5 全体会についてお聞きします。

(1)講演は日頃の教育活動のあり方を考えるうえで参考になるところがありましたか。

1 大いにあった	51%	回答数22/43 (有効回答数)
2 少しあった	47%	20/43
3 どちらともいえない	5%	2/43
4 あまりなかった	0%	

(2)参考になるところはどんな点ですか。なければそれはなぜだとお考えですか。

Q 6 今後のために、お気づきのことがあれば自由にお書きください。

D 考察

参加人数は昨年までの研究会のほぼ3倍に増加し、分科会、全体会ともに活発な討論が行われた。アンケートからは、すでにFD活動の必要性を教員の責務として自覚していることが明らかになった。また、出席状況やFDについての意識の状況は学部間に違いがあること、授業の改善についての教員の関心は高いことが明らかになった。組織の間の「温度差」をどのように埋めてゆくのか、その戦略が求められている。